

角館總鎮守神明社

創建の時期は定かではありませんが、天照大神を祀る伊勢信仰が中世以降全国に広がるなか、古城山の一角にあり戸沢氏も厚く信仰したと伝えられています。のちに田町山へ、そして佐竹北家により現在地に移されましたが角館の總鎮守として信仰を集めています。9月7日例祭「当日祭・宵宮祭」、8日例祭「神幸祭」が行われます。

勝楽山成就院薬師堂

角館を戸沢氏が治めていた時代に勝楽村の産土として信仰されていました。現在の町割の前には伝承館の南側にあったとされています。芦名氏・佐竹北家時代と長く庇護を受け「お薬師さん」と呼ばれて角館の人々の守り神、産土として信仰を集めました。

明治維新の神仏分離で一時期、勝楽神社となりましたが、本尊が薬師瑠璃光如来であるとして真言宗の別社として薬師堂に戻りました。

9月8日祭典開白法要、9日御輿渡御が行われます。

お参りしてみよう

神明社(二拝二拍手一拝)

- (1) お賽銭を入れて鈴を鳴らす
- (2) 深く2回お辞儀をする(二拝)
- (3) 手を合わせ右手を少し引き、拍手を2回打ち(二拍)祈願する
- (4) 深くお辞儀をする(一拝)

薬師堂(二拍一合掌礼)

- (1) お賽銭を入れて鈴を鳴らす
- (2) 胸の前で二拍一合掌し祈願する
- (3) 一礼する

※「拝」は90度の角度のお辞儀

※「礼」は30～45度の角度のお辞儀

お祭りを

深～く 広～く 観る知識

佐竹北家とお祭り

江戸時代に角館を治めた佐竹北家の220年にわたる記録「北家御日記」にも度々祭りの記述があり、起源を見ることができます。

1694年(元禄7年)閏5月24日 「鹿島祭り」各丁内ごとに人形を乗せた船をつくり、北家へ御目にかける祭りの記述の初見。鹿島神社は城下町の守護神として鬼門(北東)に祀られ、鹿島祭りではヤマならぬ船に人形を乗せて佐竹北家の上覧を仰いでいます。

1770年(明和7年) 船ではなく鹿島山等上がる角館のお祭りの原形を垣間見ることができます。

1799年(寛政11年)8月8日 勝楽町薬師祭礼に付き、町々より山都合40ばかり表門より見る山の数の記載も見られます。

境界って？

丁内を区分する境目のこと。曳山が境界を超え他の丁内に入丁する場合には当該丁内の張番の許可が必要です。境界が複雑な場所もあるため曳山の運行には境界の知識が必要です。

張番って？

張番は祭典中、丁内としての祭典行事を司るところで、祭典の進行の権限と責任をもち年番長が責任者となります。丁内は現在は30丁を超え、それぞれに張番が設けられています。曳山が他丁の「境界」に差しかかると「張番」に入丁許可を得る必要があり、許可されると入丁し「張番」に囃子と踊りを披露します。多くの「張番」があるため、曳山の曳き回しは町を一気に進むことはありません。

タスキの色は役職別

責任者 曳山の全責任を負い、運行上すべての決定をし、指示をします。3～5名程度で組織され内1名が正責任者として最高権限を持ちます。

交渉員 責任者より指示を受け、張番や相手の曳山との交渉を行います。交渉ではしきたりや礼儀が重んじられ独特の言い回しもあるため、若いときから多くの知識を学んでいます。責任者への登竜門ともいえるでしょう。

少年係 未来を担う子どもたちの面倒をみます。家族が近くにいなくても任せられるベテランと若者で構成していることが多いようです。

安全委員 運行中の安全を確保するために常に気配りをしています。責任者経験者などベテランも多く、様々なことを予測し安全運行に努めています。

曳山には「上り」と「下り」がある

神明社・薬師堂への参拝、佐竹北家当主への上覧へ向う曳山を「上り山」、目的を終え帰路についた曳山を「下り山」といいます。「上り山」「下り山」にはそれぞれの囃子がありません。基本的には「上り山」の通行が優先とされています。

曳山の前で交渉員は何を話している？

道で曳山同士が向かい合ったときに、優先権をもつ曳山から交渉先手とし、交渉員が通行や交差の方法等を話し合います。基本的には、丁内曳山・上り山に対し敬意を表し道をゆずる態度をとります。双方が優先を主張し、交渉でまとまらない場合には激突になることがあります。

曳山の約束事

- ★曳山には後退がない。
- ★無交渉で3尺以内に接近することは衝突を意味する。
- ★交渉中に曳山を動かしてはならない。
- ★無交渉で鼻を切ることはできない。「鼻を切る」とは、十字路、T字路等で自丁内の曳山が十・T字路に向かって位置している場合に、その前を無交渉で通過することをいう。
- ★他の曳山に触れてはならない。
- ★曳山同士が実力行使をする場合、あらかじめその丁内張番の了解を得なければならない。
- ★同じ道路をくり返し通行しないようにする。